



2018～2019年度  
国際ロータリー会長

バリー・ラシン  
Barry Rassin

(パナマ・East Nassau RC)



# Tagajo Rotary Club

RI club No. 13674  
Since 1972.03.25

会長 宮城 順 幹事 引地 辰男

雑誌会報委員会

2018-19年度  
国際ロータリーのテーマ  
インスピレーション  
になろう

第2520地区ガバナー

田中 堯史  
(盛岡RC)

◇ 事務所/宮城県多賀城市八幡四丁目2-12 イトビル2F ◇ 例会日/木曜日 12:30～  
TEL.022-366-4499 FAX.022-366-4548 ◇ 例会場/ホテル キャッスル プラザ 多賀城  
◇ URL:http://www.tagajo-rc.com Email:info2@tagajo-rc.com

宮城県多賀城市桜木一丁目1-60  
TEL.022-367-1111

## 2019年2月14日(木) 第2258回 今年度第29回例会

会場監督 横田 芳博  
開会点鐘 12時30分  
ロータリーソング 我等の生業  
ゲスト・ビジター紹介

会長挨拶 宮城 順 会長



今月のロータリー月間は、平和と紛争予防、そして紛争解決月間です。ロータリーが国際的組織であることを実感するようなタイトルですね。大規模な紛争から身近な紛争までその原因に価値観の相違と言うのが挙げられます。

さて、私達多賀城ロータリークラブにおいてはどうか？多様性と言うのはロータリーの大切な価値観の一つです。クラブの発展を促す重要な要素だと捉えています。たとえば男女と年齢のバランス、さまざまなスキルや経験など会員個々の基盤が多様であればあるほど地元や広く世界の問題とその解決策を幅広い角度からとらえて、より効果的に活動できると思います。重要なのは違いを受け入れ、そして尊重する文化をクラブとして築く事が大切ではないでしょうか？

我がクラブに置いてはその点大変うまくいっていると自負していますが会員拡大の基本はそんなところにあると思います。再度述べますが違いを受け入れ、そして互いに尊重する事。これからも大事にしていきたいと思ひます。

幹事報告 引地 辰男 幹事

## ◇ガバナー事務所より

- ・国際ロータリー第2520地区 地区大会のご案内。  
日時:平成31年4月19日(金) 親睦記念ゴルフ大会  
メイプルカントリークラブ  
平成31年4月20日(土) 盛岡グランドホテル  
15:00 会長・幹事会会議  
16:30 セミナー  
平成31年4月21日(日) 盛岡グランドホテル  
11:00登録受付 12:00 本会議  
17:20 大会懇親会

## ◇公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より。

- ・ハイライトよねやま227号をご送付頂きました。

## ◇週報をいただきました。ありがとうございました。

仙台東RC、鹿児島南RC様

卓 話

## 「職業奉仕」とはなにか。

ー職業奉仕の現状を理解するー

担当:芦澤 卓也 会員



このテーマを選んで、稿を進めるうちに、なんて壮大なテーマを選んでしまったのだろうとすぐに後悔することになりました。なぜならば、職業奉仕を語るということは、ロータリーを語るといっても過言ではない(と私は思っています)からです。かなり要約しても、卓話の時間内に終われるかどうか、いや、確実に終わらない。ということで、内容的には、超要約ということでご理解いただければと思います。後掲の註記に記載した文献等を各自であたっていたら、本稿と合わせて読んでみてください。職業奉仕に対する理解が深ま

り、私がそうだったように、皆様もきっとロータリーの素晴らしさを再発見できると思います。

#### ・職業奉仕をめぐる昨今の状況

現在、日本のロータリーでは、職業奉仕のあり方について大きな議論が巻き起こっています。皆様もご承知の通り、日本の職業奉仕についての考え方とRIの職業奉仕についての考え方に乖離があるのではないかという問題が浮上しているのです。日本のロータリーで巻き起こっている議論を要約してみます。これを機に我が多賀城クラブでも職業奉仕について、あらためて考えてみてはどうかと提案いたします。

最初に、日本の職業奉仕の考え方をロータリーの友誌、2019年1月号の廣畑(1)による寄稿文から引用して紹介します。

「国際奉仕や社会奉仕はよくわかる。しかしクラブ奉仕と職業奉仕は分かりにくいと言われます。(中略)職業を通じた奉仕活動なのだから、たとえば弁護士さんが、無料の法律相談をやる。あるいはお医者さんが、無医村に出かけて行って、無料で診療する、そういうのが職業奉仕かと思っていました。しかし、ロータリーの本を読むと、そういうのは立派な行為だけれども、職業奉仕ではなくて、むしろ社会奉仕だと書いてあります。(中略)職業奉仕が分かりにくいのは、(中略)英語でいう“ヴォケーションナル・サービス vocational service”と、それを訳した職業奉仕の概念の差によるものだと思います。だから日本の戦前のロータリーの指導者の方々は奉仕という言葉は使わない。原語のサービスで押し通しておられます(中略)奉仕の意味を辞書で引くと(広辞林)、1. 仕えること、2. 自己の利害をはなれて長上の者や公共のためにつくすこと、と書いてあります。これではロータリーの職業奉仕にはなりません。お医者さんが無医村に行って無料診療をする、弁護士さんが無料の法律相談をする、そういう話になります。一方原語、英語のサービスはずっと概念が広くて、他のもののためになる行為ですね(Done to help or benefit another or others)。ですから一般の職業の方が、日常の業務の中での普通に行う職業活動の中での職業奉仕、ヴォケーションナル・サービスvocational service、ロータリーで考える意味での職業奉仕ができると思います。なお職業は英語でオキュペーションoccupationと言いますが、職業奉仕に関しては、オキュペーションではなく、ヴォケーションvocationといいます。これは天職、天から与えられた、神様から与えられた、世の中のためになる職業です。職業奉仕で有名なのはシェルドン〔注③〕です。彼はロータリーにサービスの概念を持ち込んだ人です。彼の有名なエディンバラ国際大会(第10回大会、1921年)でのスピーチがありますが、その中で職業奉仕の説明に、靴屋さんの例を引きます。世界中の靴屋さんが1ヵ所に集まる。靴の製造器具とともに集まる。それが突然の天災で全部なくなったら靴なしで歩くことになる。はだして歩くのはたまりません。そのとき社会は、靴屋さんが如何に世の中の役に立っているか。職業を通じたサービス(相手のためになる行為)をしているかわかるだろうと述べています。確かにそのように考えれば、どんな職業でも世の中の役に立っていると思います。(中略)ご承知の四つのテストがあります…1. 真実かどうか、2. みんなに公平か、3. 好意と友情を深めるか、4. みんなのためになるかどうか、この四つです。これが職業奉仕を具体的に表しています。後にRI会長をするハーバート・テラー〔注④〕という方が、この四つのテストを考えた。彼は四つのテストを自

分の会社の従業員に徹底し、倒産に瀕していた会社を立て直した、といわれています。(中略)四つのテストは、ロータリーの有名なモットー、アーサー・シェルドンの言う、“He profits most who serves best〔注⑤〕最も良く奉仕する者 最もよく報われる”という言葉と、基本的に一致するものです。戦前には、“最もよくサービスするもの、最もお金が儲かる”、という訳もあったようです。ただしロータリーでは、利益を上げようと思って職業奉仕をするのではありません。天職を通じたサービス(職業奉仕)、相手のことを考え、皆のためになるように、そういう職業活動をする。それがビジネスの繁栄につながるという考えです。

以上職業奉仕は、ロータリアン全員が自分の天職を通じてできる行為であり、天職を通じて人のためになる行為であり、四つのテストに具体的に表されている。又あくまで倫理的な行為ですが、結果として、長い目で見れば、大きな利益につながるという事をお話しました。天職は、天から与えられた、神様から与えられた世の中のためになる職業ですが、ギャンブル、売春などを除き、すべての職業が天職であり、世の中のためになる職業です。自分の職業を大事に思い、職業を通じて世の中に貢献する、それが大切です。(中略)

後記 職業奉仕のこういう考え方は、ロータリーの専売特許ではない。戦後の日本で大成功を収めた実業家の書かれたものを読み、あるいはその追憶文を読むと、上に記した職業奉仕と同じ考えが述べられている。たとえば、ホンダの本田宗一郎さんは同じ考え方だし、松下電器の松下幸之助さんの考え方もそうだし、出光石油の出光佐三さんの考えもそうである。“ヴォケーションナル・サービスVocational Service”を“職業奉仕”と訳すようになったのは、戦時中に職業を国に捧げる、命も国に捧げる、そういう雰囲気の中で生まれた。“御国に捧げん我等の生業(奉仕の理想の歌の一節)”という雰囲気である。(中略)“サービス”についての、手続き要覧の記述(2001年版、p75)は明快である。

Rotary employs the word service in its broadest sense, referring not merely to the merchandise sold or work done in any business or professional transaction, but also to the giving of due consideration to the needs and to the circumstances of the one served and to the continual thoughtfulness of others. ロータリーは、サービスという言葉で、最も広い意味に使っている。ビジネスの商取引や専門職の行為(医療や弁護士の業務など)の場合にそうであるし、サービスを受ける側のニーズや状況に気を配り、常に他の人への思いやりの心を持つことである。

注③:アーサーF.シェルドン(1868-1935)初期ロータリーの指導的人物。国際ロータリー(RI)の第2標語の原型提示者。

注④:1954-55年度RI会長

注⑤:2010年の規定審議会にて「He profits Most Who Serves Best」は「One profits Most Who Serves Best」に改定。」(2)

以上が日本の職業奉仕についての伝統的な考え方の代表例です。

そして、このような考え方が根付いている日本では、「ロータリーのロータリーたる所以は職業奉仕の実践にあり」とか、「ロータリーの本質は職業奉仕」または、「職業奉仕はロータリーの金看板」などといわれ、職業奉仕はロータリーの中心に位置付けられているといっても過言ではありません。

ところが、この日本の職業奉仕の考え方について、一石を投じる出来事がありました。2017年1月号のロータリーの友誌に『「職業奉仕」はロータリーの根幹か?』という、日本の

職業奉仕に疑問を投げかける内容の寄稿文が掲載されたのです。この論文を発表した本田(3)は以前から「世界のロータリアンは『職業奉仕の活動』を語り、日本のロータリアンは『奉仕の理念』(の職業への適応)や自分の職業観を語る。これが日本ロータリーの『ガラパゴス化』を招いている一因だ。この、世界と日本との違いを、『日本の理解の方が正しい』とか、『職業奉仕は他の奉仕部門とは違う』として、クラブの職業奉仕の実践を否定する態度は間違っている。」(4)と主張していました。本稿ではさらに、本田が行った、職業奉仕に関する講演の内容等も追加し本田の主張を以下に要約します。

#### ・職業奉仕月間と「職業奉仕入門」

2013年手続き要覧p89職業奉仕月間(Vocational Service Month)の解説とRI発行の「職業奉仕入門」(255-JA(313))(職業奉仕を実践する方法や具体例が紹介されている公式の手引書)の解説を見てみましょう。

#### 職業奉仕月間(Vocational Service Month)

毎年10月(現在は1月に移動)の『職業奉仕月間』は、クラブが職業奉仕の理念を日々、実践することを強調するための月間である。この月間中に推奨されるクラブ活動には、地区行事でのボランティアの表彰、ロータリー親睦活動への参加の推進、職業奉仕活動またはプロジェクトの実施、未充填の職業分類に焦点を当てた会員増強の推進などが含まれる。

この記述に「そんな職業奉仕ではないのでは？」と、少し違和感を覚える方が多いのではないのでしょうか？(本田)

#### ・RI発行の「職業奉仕入門」(255-JA(313))(職業奉仕部門の活動のための公式の手引書)

この手引書には、職業奉仕を実践する方法や具体例が紹介されている。これらの活動や、類似した活動をクラブで実施することを推奨している。

まず「職業分類」というテーマでは、

- ・ある職業分類を取り上げた例会プログラムを実施する
- ・会員の職場訪問(ツアー)を行う
- ・職業に関連する親睦活動グループに参加したり、新たにグループを設立する

\*ロータリー親睦活動は、共通の趣味や職業を持つロータリアンとその配偶者、ロータ

ーアクターによる国際的な取り組み。意志、法律・弁護士、出版関係など、親睦活動グ

ループの種類は多岐にわたる。

- ・奉仕プロジェクトで職業奉仕を生かす

次は、「高潔性と倫理」というテーマ。

・「四つのテスト」と「ロータリーの行動規範」について、例会で時間を割いて話し合う

- ・職場で倫理に関する研修を行う
- ・企業や専門職の人々を称える表彰を行う
- ・若者を対象とした進路指導を行う
- ・職業研修チーム(VTT)

\*VTT(Vocational Training Team):ロータリー財団、未来の夢計画のグローバル補

助金を使う事業の一つ

いかがでしょうか。私たちがこれまで教わってきた「職業奉仕」とRIの提唱する「職業奉仕」とは重なる部分もあるが、違う部分もたくさんあるようだとおられたのではないのでしょうか。

違いがあることは分かっている。しかし日本の「職業奉仕」の理解の方が正当なのだ！という人もいますが、そう言い切つてよいのでしょうか。(本田)

#### ・奉仕部門の一つとしての「職業奉仕」

ロータリー理念の根底に「職業奉仕」を位置付ける日本の伝統的議論とは異なり、国際ロータリーが推進する「職業奉仕」は五大奉仕部門の一つとしての「職業奉仕部門」です。

「五大奉仕部門」の定義が、国際ロータリー定款や細則には掲載されず、標準ロータリークラブ定款(6条)にだけ示されているのは、それが、その前文で明記されている通り「個々のロータリークラブの活動のための基準・枠組み」であるからです。

そこには、ロータリークラブ会員が各奉仕部門で行うべき行動・活動が示されています。第一部門の「クラブ奉仕」は「行動」、第三部門の「社会奉仕」は「取り組み」、第四部門は「国際奉仕」は「クラブの活動やプロジェクト」、第五部門の「青少年奉仕」は「活動」、「プロジェクト」、「プログラム」などという言葉で、具体的に会員やクラブの行動を求めています。

ところが、第二部門「職業奉仕」は、これまで、記述が他の部門とは明らかに異質でした。クラブの活動の枠組みであるはずの「奉仕の第二部門」としての説明が欠落していたのです。

しかし、2016年の規定審議会で「立法案16-10奉仕の第二部門を改正する件」が採択され、奉仕の第二部門である職業奉仕の定義に、アンダーラインの部分が追加されました。「奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践していくという目的を持つ者である。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる。」(「標準ロータリークラブ定款」第6条五大奉仕部門第2節)

これで、「職業奉仕部門」も含めて5つの奉仕部門すべてが、クラブの活動の枠組みであることが明確になったのです。

(本田)

#### ・世界のロータリーが考える「職業奉仕」とは？

日本以外(?)の世界のロータリーでは、当然のように「職業奉仕」を他の奉仕と並ぶ、一つの奉仕部門(an Avenue of Service)として位置付けています。例えば、2005年ごろから推奨されているクラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)では、「職業奉仕委員会」は、5つに機能分類された「奉仕プロジェクト」の中の1小委員会として、「社会奉仕」「国際奉仕」「青少年奉仕」の各委員会と並んで配置されています。このことに違和感を覚えた日本のロータリアンは多かったはずですが、しかし、2016年の規定審議会で「16-05クラブ内の委員会について規定する件」が採択され、標準ロータリークラブ定款に、CLPに基づく委員会構成が明記されることになり、奉仕

部門の一つとしての「職業奉仕」の位置づけがより明確になったのです。(標準ロータリークラブ定款第13条第7節)世界のロータリーでは、自分の職業上のスキルを生かした奉仕活動は、個人が行うものであれ、クラブが行うものであれ、すべて立派な「職業奉仕」の活動として活発に実践されています。

・日本の「職業奉仕」論は「職業倫理」論？  
日本のロータリアンが得意な「職業奉仕」論は、世界では「(職業)倫理」“(Vocational) Ethics”というテーマで論じられている。

・私の提案:「奉仕の理念」を語ろう  
私の提案は、「職業奉仕」という言葉で「奉仕の理念」(の職業への適用)や自分の職業観を語ることをいったん止めてみたらということ。  
クラブの活動のための枠組みである「五大奉仕部門」(Five Avenues of Service)の第二部門(second Avenue)である「職業奉仕部門」の活動だけに「職業奉仕」という言葉を使ってみたら、という提案。

・“Vocational”は、名詞の“Vocation”から発生した言葉であり、“Vocation”は「天職」(calling)だけではなく、「正規の雇用」(regular employment)、「事業」(business)、「専門職」(profession)、「仕事」(occupation)など職業の様々な側面を含めた一般的な「職業」を表す用法。“Vocational Service”という言葉から、“Calling”だけに注目して深遠な天職論を語ったり、そこに「職業奉仕」の本質を見たりするのは少し強引。

・「職業奉仕」という言葉ではなく、「奉仕の理念(奉仕の理想)」(The Ideal of Service)という言葉で、ロータリーの理念について議論を深めてゆこうというのが私の提案の真意。  
・なぜなら、「ロータリーの目的」は、「意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むこと」であり、「奉仕の理念」がロータリーの根幹であるから。」(5)

本田がこのような考えに至った背景は、次のようなことにあります。

「かつて四大奉仕の中でも職業奉仕は具体的な奉仕活動を求める他の奉仕部門とは違い、奉仕の理念への職業の適用を謳った「ロータリーの目的」の第2項目に通ずる、他の奉仕部門の上位概念のようなものではないかと思っていました。「四大奉仕」に収まっていることがおかしいと。2012年バンコク国際大会の職業奉仕分科会に参加した時に、日本のロータリアンは、私たちにはお馴染みの「職業奉仕」の理念を熱心に語り、一方、欧米のロータリアンは、「職業奉仕部門」の、特にクラブでの活動実績例を語り、両者は噛み合わないままに分科会は終わったのです。「同床異夢」という言葉が頭をよぎりました。そして、その噛み合わない理由が、標準ロータリークラブ定款第5条第2節の職業奉仕部門についての規定の仕方が「誤解」の元となっている。」(4)と述懐しています。

ちなみに2016年の規定審議会での「立法案16-10奉仕の第二部門を改正する件」を提案したのは、本田が所属する

群馬の第2840地区です。(賛成254、反対210で採択)この提案の採択は、2012年バンコク国際大会の職業奉仕分科会での、欧米のロータリアンとの、職業奉仕についての認識の違いを、標準ロータリークラブ定款第6条第2節が元となっているとの考えに基づいた行動の結果だと思えます。この採択については日本でも反対する意見があり、ある地区ではこの決議を覆す提案をなすべきかどうかの議論もあるようです。

前出の廣畑は、2007年、当時のウィルフレッドJ.ウィルキンソン国際ロータリー(RI)会長の依頼を受け、RIに久しぶりにできた職業奉仕委員会(Vocational Service Committee)の委員を引き受け、2008年にエバンストンのRI本部で開かれた委員会に出席した時の感想を次のように述べています。「出席した各国からの委員は、確か7名くらいだったかと思えます。(中略)特に覚えているのは、ヨーロッパの方でしたが『この会議は非常に有益であった、職業奉仕(職業サービス)がよくわかった』という発言でした。正直な発言をされるのに感心しましたが、しかしその方は、すでにRIの理事を務めた方ですから、理事の前に理解しておいて頂きたかった、と思った鮮明な記憶があります。各国で、良く理解されていない、そういうことなのでしょう。」(6)さらに続きます。「Code of Ethics道徳律が、Vocational Service職業奉仕(サービス)に、密接にかかわっています。つまり職業を通じ、人のためになるには、モラルが高くなければならない。戦前のロータリアンは、この道徳律を非常に大切にしました。(中略)この道徳律は、手続き要覧から、いつの間にか消えてしまった。私が委員会で、Code of Ethicsの話をする、RI事務局の方たちは、顔を見合わせて“知らない、聞いたことがない”というので驚きました。幸い、サブーRI元会長が、説明されました。(中略)翌年(2009年)の国際協議会で、サブーさんが、Vocational Service職業奉仕(サービス)について講演されました。タイトルに、Abandoned Avenue of Service(無視されてきた部門)と書かれていた。日本では大事にされる部門だが、世界ではそうなのか、と思った次第です。(中略)ある発展途上国の委員の方が、各地区に、Ethics Committee倫理委員会を作ってほしいと要望しました。Vocational Serviceとどう関係あるのか理解しにくい。休憩時間に聞いてみると、『ガバナーに関するいろんな噂(トーク、トーク)がある、それを倫理委員会で調べてほしい』、ということでした。たしかに、世界各地から、援助金が送られます。一部ポケットに入れるかどうかは別として、ガバナーは、魅力のあるポストなのでしょう。『ガバナーを選ぶときは、必ず複数の候補が出る、そして必ず選挙になる』、とのことでした。ここで、マジ・アベさん(RI元会長)が、ロータリー入会の動機を語ったのを思い出します。本国のナイジェリアは非常に貧しい、どうしたら良いか、援助を受けるために、ロータリーに入った、とのことでした(ロータリーの友誌)。私見を言えば、援助は結構だが、そのための金集めが先行し、ロータリーの100年の伝統が、次々に崩されて行ってしまう、と思っています。」(7)

ここから読み取れることは、RI理事経験者でも、Vocational

Service(職業奉仕)について理解していない人もいることから、各国のロータリアンのVocational Service(職業奉仕)への理解度もおのずと知れてくるということです。そして、サブ一元RI会長の講演のタイトルからもわかるように、Vocational Service(職業奉仕)に関する世界のロータリーの関心は薄いといえます。さらに、発展途上国や最貧国のロータリアンたちとロータリーの奉仕の理念が共有できているのかという疑問も生じてきます。

このことから、本田が出席した2012年バンコク国際大会の職業奉仕分科会での議論が噛み合わなかったのもなんとなく分かるような気がします。つまり、職業奉仕分科会に出席した欧米のロータリアンたちは、職業に奉仕の理念を適用することの大切さを理解せずに、単にRIの手続要覧に載っている職業奉仕月間やRI発行の「職業奉仕入門」(255-JA(313))の内容を実践しているだけなのではないかということです。だとすれば、標準ロータリークラブ定款第6条第2節が改正されたということは、ますますこのような傾向を助長することになりかねません。日本のロータリアンと世界のロータリアンとの職業奉仕をめぐる溝はさらに深まるのが危惧されます。

本稿では「日本の職業奉仕の考え方」と表現してきましたが、1948年に発行されたロータリーの歴史的文献の一つである職業奉仕の実践手引書、「Service is my business」「奉仕こそわがつとめ」(8)を読んでみますと、少なくとも、このころのロータリーでは廣畑の寄稿文で紹介されていた内容よりも、さらに熱く、厳格とまでいえる職業奉仕論とその実践が奨励されていたようです。「奉仕こそわがつとめ」の一節に、『職業奉仕こそロータリーの挑戦である』とは、いわばあるロータリアンの吹き鳴らした進軍ラッパの響きであります。『これこそ世界中の数多の団体の中で、ひとりロータリーが特異な存在となっている重要な特徴である。職業における奉仕というロータリーの考え方を、今日ほど切実に必要とする時代はいまだかつてなかったというこの世の中における、ロータリーの主たる存在意義はここにあるといってもおそらく過言ではないであろう。』(原文ママ)このように、職業人の集まりであったロータリーは、職業奉仕を基礎に発展してきたことは間違いありません。人道支援や社会奉仕が大切であることは間違いありません。しかし、大切な職業奉仕の魅力が損なわれてしまったのでは、ロータリーの魅力も損なわれてしまうのではないのでしょうか。人道支援や社会奉仕を行っている団体は他にもあるのです。個々の会員が自分の職業を通じた奉仕活動を行うことを理念に掲げている奉仕団体はロータリークラブだけで、そこに他の奉仕団体との明確な違いがあり、魅力があるのだと思います。

RIは時代とともに、いつの間にかこのような職業奉仕の考え方を忘れてしまったのでしょうか。2013年の規定審議会で「仕事をしたことがない人または仕事を中断している人を正会員として認める件」が採択されたことは理解に苦しみます。会員増強を考えてのことだとすれば本末転倒だと言わざるを得ません。なぜならば、日本を含めた全世界のロータリアンが、初期のロータリアンがそうだったように、“He profits most who serves best最も良く奉仕する者 最もよく報われ

る”をモットーとした職業奉仕を理解して、実践することにより社会が良くなり、結果的に自身の成長や会社の成長に結びつけば、さらに奉仕ができる。その先には、人道支援を含めた社会奉仕、青少年奉仕が見えてくるのではないのでしょうか。このように、職業奉仕を実践し活躍するロータリアンが増えれば、ロータリークラブに魅力を感じ、職業奉仕を実践して共に奉仕したいという入会希望者も増えると思います。このような地道だけ基本的理念を大切にしたい会員増強が本道だと思います。職業奉仕を骨抜きにするような会員増強はロータリーの衰退を招きかねません。各クラブの基盤を強くし活性化させることは、ひいてはRIの発展につながるようになります。したがってRIが行わなければならないことは、初心に戻って、職業奉仕の理念を大切に、その重要性を世界の各クラブへ徹底的に周知することだと思います。そして、それを実現させるには、ロータリーの伝統的な職業奉仕の考え方を伝えることができる日本のロータリーの責務だといえるのかもしれませんが。ロータリー発足当時の時代背景は「法さえ犯さなければ、如何なる手段を駆使しようとも、大金を手中にしたものが成功者としてもはやされる、極端ともいえる自由主義経済の下でロータリーは出発しました。大都会で事業を営む実業家にとっては、周囲にいる同業者はすべてライバルであり、僅かな隙でも見せようものならば、寄って集まって引きずり落される競争社会の中では、誰一人として信用できる人はなく、孤独感と、いつこの自由競争の落伍者になるのかという恐怖感に苛まれていました。そんな中であって、胸襟を開いて、心から打ち溶け合ってどんなことでも語り合える友人を得るために創られたのがロータリークラブです。」(9)このように、現代とは少し違う状況下でしたので、当時のままの職業奉仕をそのまま伝えるということは妥当ではないかもしれませんが、初期の職業奉仕の考え方のいいところを遺し多様化した現代にあった職業奉仕のあり方を構築することは、決して不可能なことではないと思います。今こそ日本のロータリアンの知恵を集結して、規定審議会に職業奉仕の在り方を再定義して提案するなど、新たな原点回帰を基盤にロータリーを発展させていくということが求められているのではないのでしょうか。

#### ・まとめ

第2840地区PDG本田博己氏の「職業奉仕」はロータリーの根幹か?という論文は、全国的な議論を巻き起こし、職業奉仕について再考する機会を与えたという意味でも、意義のあることだったと思います。また、本田氏の主張は同意できるところも多々あります。しかし、職業奉仕を五大奉仕部門のうちの一部門と明確に位置付けることもよいとは思いますが、各部門を無理に均質化する必要はないと思いますし、それは職業奉仕を基礎に発展してきたロータリーには無理があると思います。なぜならば、職業奉仕の本質をよく理解せずに、手続要覧に載っている職業奉仕月間の内容やRI発行の職業奉仕入門に記載されている内容を実践しても、視点が定まらず、その活動は形骸化してしまうからです。そういった意味では、渡辺好政RI元理事が提唱して、2013年RI規定審議会で採択された「ロータリーの樹」(10)という考え方がしっくりくると思います。

以下、渡辺によるロータリーの樹の説明

「一本の樹は、『クラブ奉仕』という『根』から吸収された『水』と『栄養』は、『奉仕の理想』という『導管』を通して上に上がります。その『幹』を通す導管というのが『奉仕の理想』でございます。そして、『枝や葉』は、『社会奉仕』、『国際奉仕』になり、『ロータリー財団』という『花』を咲かせます。そして、やがて多くの素晴らしい『実』を結びます。では、『実』とは、ポリオ撲滅、平和フェロー、R財団奨学生、グループ研究交換(GSE)、世界社会奉仕(WCS)です。『木のよしあしは、その実においてわかる』という言葉がございます。ロータリーの樹の結ぶ実は素晴らしいものではないかと思えます。(渡辺)

このように、ロータリーを一つの樹に例えると、ロータリーの各部門は一つ一つに分かれてはいるが、幹の部分が職業奉仕になっているというところに、ロータリーでの職業奉仕の位置づけがよく表されていると思います。クラブの中で会員が相互に奉仕の理念を醸成し、まずはそれを自分の職業に適用する。そういう会員の集合体であるロータリークラブは職業奉仕を中心として五大奉仕を綿密にリンクさせることによってその機能が発揮されるということがお分かりいただけると思います。



註

- ① 廣畑富雄PDG RID2700 福岡西RCロータリー情報委員長 (2005-06年度ガバナー)
- ② 廣畑富雄『職業奉仕 Vocational Service とは何か』ロータリーの友誌2019年1月号,pp8-9
- ③ 本田博己PDG RID2840 前橋RC(2013-14年度ガバナー) 日本のロータリー100周年委員会 ビジョン策定特別委員会委員長
- ④ 本田博己『「職業奉仕」はロータリーの根幹か?』ロータリーの友誌2017年1月号,pp14-17
- ⑤ 本田博己(2017)『「奉仕の理念」を語ろう!』~日本のロータリー100周年に向けて~ 国際ロータリー第2550地区 職業奉仕研究セミナー講演録 [www.rid2550.com>](参照 2019-2-12)
- ⑥ 廣畑富雄(2013)『「RI職業奉仕委員会に関するつぶやき」(その一)』[https://genryu.org>files>shokugyo\_1](参照 2019-2-12)
- ⑦ 廣畑富雄(2013)『「RI職業奉仕委員会に関するつぶやき」(その二)』[https://genryu.org>files>shokugyo\_2](参照 2019-2-12)

- ⑧ パーシー・ホジソン(1948)『Service is my business(奉仕こそわがつとめ)』(翻訳版)大阪南RC(2007)電子文庫版
- ⑨ [https://genryu.org>tanaka>general](参照2019-2-12)
- (10) 渡辺好政(2008)『職業奉仕の重要性について』2008年国際協議会 講演集

スマイルボックス

S・BOX委員会

- ・卓話させていただきありがとうございます。芦澤会員
- ・ハッピーバレンタイン!! 宮城、赤坂、小向各会員
- ・芦澤さん卓話ありがとうございます。

佐山、伊東、林、岩井、鈴木(誠)、穀田、横田  
阿部(新)、引地、大熊各会員  
本日の合計 16,000円

出席率報告

出席委員会

本日第2251回出席率 17/34(-1)名 51.52%  
前々回第2249回例会修正出席率 66.67%  
○メイクアップ

○テーマ:「RLIについて」 担当: 嶋原 啓文 会員  
閉会点鐘 13時30分

文責:雑誌会報委員会 小島 邦道

次回卓話